

# JCA

Japan Communication Association (JCA) Newsletter 日本コミュニケーション学会ニュースレター

# NEWS

124 2020.7

## CONTENTS

- |                       |         |                     |          |
|-----------------------|---------|---------------------|----------|
| 1. 巻頭言                | ..... 1 | 6. 広報局便り            | ..... 9  |
| 2. 学術局報告 年次大会に関するお知らせ | ..... 2 | 7. 支部ニュース           | ..... 10 |
| 3. 2019年度第3回理事会報告     | ..... 3 | 8. マイページ登録のお願い 編集後記 | ..... 13 |
| 4. 学術局からのお知らせ         | ..... 5 |                     |          |
| 5. 事務局報告              | ..... 7 |                     |          |

## 巻頭言

日本コミュニケーション学会会長 高井 次郎 (名古屋大学)

本来ならば会員の皆さまには6月6日～7日開催予定であった年次大会におきまして、ご挨拶をさせていただくはずでありました。今年は50周年大会であり、半世紀にわたる日本コミュニケーション学会の活動を祝うイベントになる予定でありました。このような社会情勢（世界情勢）になるとは、予想もつきませんでした。大会開催が実現できず、とても残念に思っております。他学会ではオンライン大会に切り替えたケースもありますが、今回のJCA大会は記念大会のため、オンライン開催を行うためのノウハウと習熟度が不十分のまま、不確定な要素が多すぎたため、断念いたしました。その代わりに、1年延期し、来年の6月に開催することを決定いたしました。会員の皆様には、学会の最も重要な機能の一つである、年次大会を本年度は開催することがなく、誠に恐縮しております。



4月から本格的になった「新たな日常=new normal」は、われわれのコミュニケーションにおいて大きな変革をもたらしました。1990年代前半にアメリカの大学院でコミュニケーションを学んでいたとき、インターネットの普及により「対人」と「マス」コミュニケーションが融合される時代が来ると、よく話題になりました。当時はまだ電子メールがようやく実用化されはじめ、その実際が想像しにくかったですが、今は大学教員のほとんどが普通のように、ZoomやTeamsで録画された授業を実施したり、講義をYouTubeなどにアップロードをしています。10数年前は、個人ユーザー（特に若者）が友人に視聴させる意図で、悪ふざけをしたビデオをYouTubeにアップロードをした結果、炎上し、世界中からの批判を浴びるようなことがありました。「対人」であったつもりが、実は「マスコミュニケーション」であり、不特定多数の人へのコミュニケーションがいつの間にか行われていました。こうしたことは、ニューメディアのユーザーとしてのリテラシー不足ではありますが、「コロナ時代」は、デジタルメディアに精通していない人びとに、数週間（数日間の場合もあり）対人コミュニケーションからマスコミュニケーションへの変身を強めています。

オンライン授業、テレワーク、Zoom会議やWebinarによる国際学会参加など、年が明けた時点ではまったく想像にもつきませんでした。わずか数ヶ月の間に、われわれの生活に新しいコミュニケーション形態が浸透してきました。現代社会に適応するには、デジタルコミュニケーション技術を身につけなければならず、それと同時にユーザーとしてのリテラシーも必要です。アメリカの大統領がSNS上で失言を繰り返していることを見ながら、マスコミュニケーションとしての自覚と責任を持つことの必要性を実感するようになりました。デジタルコミュニケーションは、初心者にとって実に脅威な存在かもしれません。

良いことのないコロナ時代ではありますが、マスコミュニケーションになったことで、われわれがより誠実なコミュニケーションになれるのであれば、それはそれでよいのではないのでしょうか？「コロナに感謝」とは決して言えませんが。

## 学術局報告 年次大会に関するお知らせ

学術局長 小西 卓三

2020年6月6日(土)、7日(日)に予定されていた第50回大会は、新型コロナウイルスのパンデミックのため、2021年に延期する決定をいたしました。3月の中止の決定は苦渋の決断ではありましたが、その後の日本国内の社会経済活動の流れを踏まえると、適切な判断だったと考えております。

「コミュニケーション学アクチュアリティの現在地/現在知」というテーマは、学会設立50周年を視野に入れて設定されたものでした。しかしながら、会員の皆様がそのテーマを見た時と、このニュースレターが発行される時で、異なる現在地アクチュアリティ/現在知を持つ、計らずも極めて現代的なテーマになっています。

大学の授業でこれほどまでにオンライン授業が実施され、「教室」での授業のあり方が変わってしまうこと、研究者同士の打ち合わせの在り方が変わってしまうこと、学会の大会自体のあり方が変わってしまうことなど、今年の初めに考えられていた方はいらっしやらないでしょう。事実、私が6月に参加したカナダの国際会議では、Zoomで日本とヨーロッパと北米をつなぎ、研究者同士のコミュニケーションの場が設けられました。コミュニケーションのあり方の現在地、そこで作られる知の現代性は、この原稿を執筆しているさなかに大きく変容していると考えられます。

幸いといってよいのか、2021年の全国大会は、「コミュニケーション学アクチュアリティの現在地/現在知」というテーマをもう一度掲げて、コミュニケーション学のあり方、その作り出す知について真剣に討議する場を提供することとなりました。2020年度の前期に身の回りで起こっていることも含めて振り返り、コミュニケーションの視点で問い直してみる機会とできればと考えております。今年の6月に発表を予定していた方を含め、多くの会員の方々と来年お会いできるのを楽しみにしております。

## 2019年度 第3回理事会報告

**新**型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、3月30日に予定されていた2019年度第3回理事会が延期となった。急を要する議案について以下のとおりEメールを用いて審議（2020年4月1日～2020年4月23日）が行なわれた。20名の理事の投票により審議事項は承認された。

### 審議事項

#### 【1】第50回年次大会の中止について

6月6日（土）・7日（日）開催予定の第50回年次大会の中止が提案され、承認された。

#### 【2】次回大会が中止になる場合の今後の対応について

第50回年次大会を中止した際に①～③の対応をとることが承認された。

①大会テーマは、当初のとおり「コミュニケーション学の現在地／現在知(アクチュアリティ)」とする。

②1日目の基調講演及びシンポジウム、2日目の50周年シンポジウムに関しても、そのまま翌年の大会で実施する。

③すでに応募がなされている発表論文・企画セッションに関しては、1年後に延期された次回大会において、同テーマ、同内容で発表可能な旨を通知する。それ以外の会員に対しても、例年通りのスケジュールで募集を実施する。

#### 【3】学会賞について

(1) 3月19日の拡大学術局会議で、下記のように本年度の学会賞の候補者が選定され、その決定について承認された。

##### ①書籍の部

清宮徹 『組織ディスコースとコミュニケーション』同文館

##### ②論文の部

学会賞：

田島慎朗 「Civility 概念の意義—現代日本の社会運動を考えるにあたって—」

奨励賞：

宮本淳子・増田靖 「イノベーション創出を促進する「対話」型コミュニケーション—新技術開発現場における『語り』に関する事例研究—」

#### (2) 受賞式の延期と授与の延期について

授賞式および授与は2021年度の大会にて2021年度の実賞者とともにおこなうことについて承認された。

#### 【4】2020年度業務委託について

2019年度に引き続き2020年度も国際文献社に学会業務を委託することが提案され、承認された。

【5】「日本コミュニケーション学会・研究論文集投稿規程」及び「日本コミュニケーション学会・学会誌執筆要領」の改定について

投稿規程の第3条（研究倫理の遵守）・第5条（投稿手続き）・第8条（審査）・第10条（原稿の返却）、執筆要領の第4条（書式上の注意）について改定案が審議され、修正の上承認された。ただし、一部の改定箇所については、正確を期すために検討を続けることとした。

**【6】 オンライン入会申込の開始について**

JCA ホームページからのオンライン入会申込について運用開始が承認された。今後ホームページ上にリンクを作成し、完成後利用が可能となる。

**【7】 2020 年度役員の改選について**

会則第 26 条にもとづき、任期を迎えた役員の改選を行い審議の上承認された。なお、2020 年度の役員については本学会のホームページ上に掲載されている「役員名簿」をご覧ください。

**報告事項**

以下の報告がなされた。

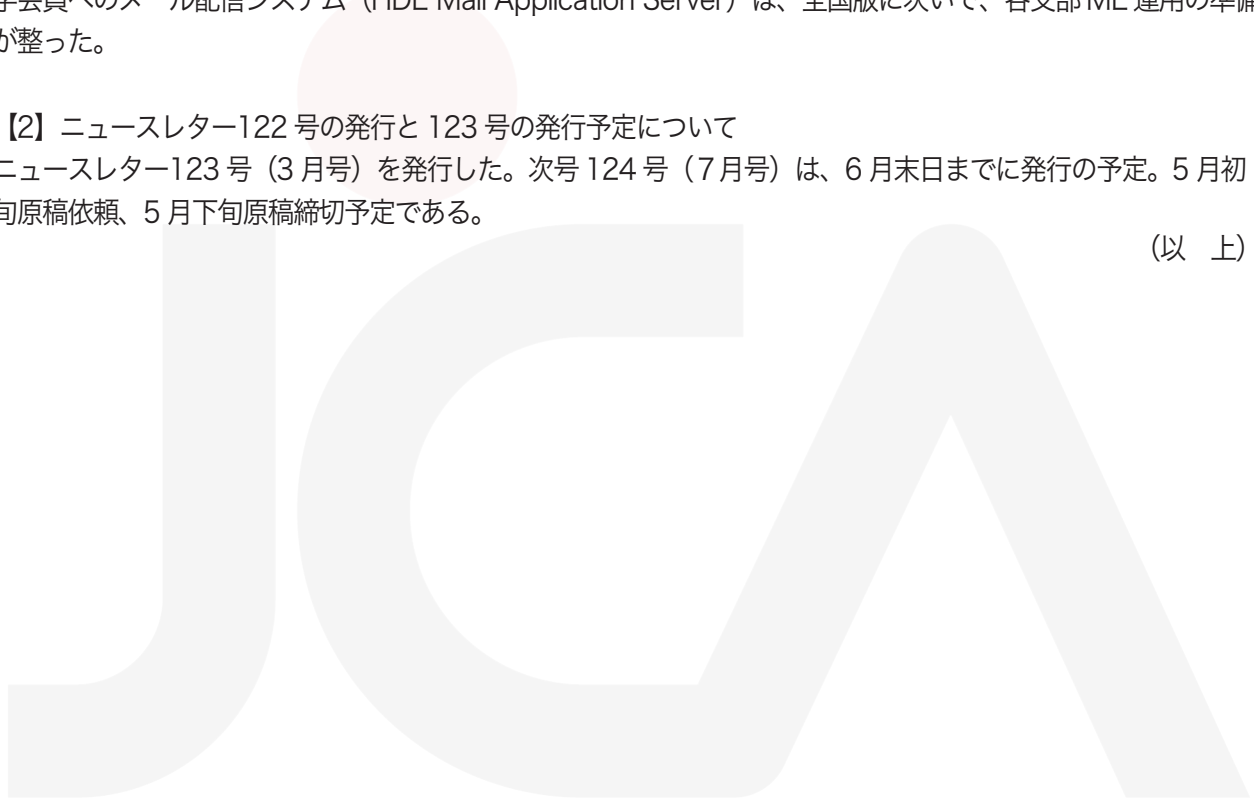
**【1】 各支部用 ML 運用について**

学会員へのメール配信システム (HDE Mail Application Server) は、全国版に次いで、各支部 ML 運用の準備が整った。

**【2】 ニュースレター122号の発行と123号の発行予定について**

ニュースレター123号(3月号)を発行した。次号124号(7月号)は、6月末日までに発行の予定。5月初旬原稿依頼、5月下旬原稿締切予定である。

(以 上)



## 学術局からのお知らせ

### ジャーナルに関するお知らせ

既に皆様のお手元に届いていることと思いますが、『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第48巻第2号が5月末に発行されました。今回の学会誌には、2本の研究論文と、2019年度年次大会での基調講演者の山口誠氏の論考が掲載されています。

また、第49巻1号の締め切りが1月末に終了し、9本の論文が投稿されました(再投稿論文を含む)。こちらは11月末の発行を目指し、その後の作業が進められています。

加えて、**現在第49巻2号(2021年5月末発行予定)への投稿論文を募集中**です。締め切りは7月末日ですので是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿は、ワード等で作成された「論文」、「シノプシス」、「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、の3つのファイルを添付ファイルとして、指定メールアドレスに送付するという形をお願い致します。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。投稿される際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]caj1971.com  
CC: ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の大橋(ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp)までご連絡下さい。可能な限り迅速に対応いたします。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

### 2019年度ジャーナル『日本コミュニケーション研究』掲載論文

#### 『日本コミュニケーション研究』第48巻 第1号(令和元年11月発行)

研究論文:

宮本淳子・増田靖「イノベーション創出を促進する『対話』型コミュニケーションの特徴:新技術開発現場における『語り』に関する事例研究」

木下浩一「初期テレビ放送における翻訳規範:日本教育テレビの吹き替えを中心に」

山本真知子「もう一つの身体作法の獲得に向けて:『社会運動の高齢化』という問題から考える」

#### 『日本コミュニケーション研究』第48巻 第2号(令和2年5月発行)

特別企画:第49回日本コミュニケーション学会年次大会基調講演

山口誠「観光、メディア、コミュニケーション:後期観光とレガシー化する社会」

研究論文:

田島慎朗「Civility概念の意義:現代日本の社会運動を考えるにあたって」

菅野遼「公共スクリーンとコミュニケーション労働:映画『ドッグヴィル』における労働の視覚化と見ることの労働化」

## 学会賞の選考結果について

去る2020年3月19日に学会賞の選考委員会を開催し、書籍の部と論文の部について検討しました。書籍の部では、清宮徹先生が書かれた『組織のディスコースとコミュニケーション：組織と経営の新しいアジェンダを求めて』、論文の部では『日本コミュニケーション研究』第48巻（2019年度）に掲載された論文のうち、田島慎朗先生が執筆された「Civility概念の意義：現代日本の社会運動を考えるにあたって」を「学会賞（論文の部）」に、宮本淳子先生と増田靖先生が執筆された「イノベーション創出を促進する『対話』型コミュニケーションの特徴：新技術開発現場における『語り』に関する事例研究」を「奨励賞（論文の部）」に、それぞれ推薦しました。この推薦結果は4月1日～7日にかけてメール審議で行われた理事会において、審議の結果承認されました。清宮先生、田島先生、宮本先生・増田先生、おめでとうございます！

審査委員会は、以下のようにそれぞれの書籍・論文を評価しました。

### 日本コミュニケーション学会 学会賞（書籍の部）

#### 清宮 徹（2019）『組織のディスコースとコミュニケーション』（同文館出版）

本書は、ディスコース研究とは何かに関して、非常にわかりやすく解説されている良書である。豊富な先行研究のリビューが行われており、組織論におけるディスコース研究の起源から、その方法論、研究アプローチ、組織ディスコース研究の現状と方向性に関して詳細に解説されている。ディスコース研究のバックグラウンドがない読者にも非常にわかりやすく解説されている点も高く評価できる。日本における組織コミュニケーション研究の発展に多大な寄与となる研究書であると共に、本学会における研究のパラダイムを考えるうえで、いかなる研究分野においても参考となる書籍である。



### 日本コミュニケーション学会 学会賞（論文の部）

#### 田島 慎朗「Civility概念の意義：現代日本の社会運動を考えるにあたって」（『日本コミュニケーション研究』第48巻第2号掲載）

本論文は、日本では学術的にも社会的にもあまり議論がなされていないcivilityという概念を現代日本の社会運動に適用して考察したものである。欧米の概念的議論を論じた部分ではその多面的な議論がよくまとめられている点が高く評価された。日本における civility 概念に関する議論を検討した箇所では、丁寧にこれまでの議論をすくいあげつつ、今日までの日本での civility 概念の検討の不十分さが指摘されている。これらの論考に則った上で、「マネキンフラッシュモブ」と「自宅警備隊」という二つのパフォーマンスを取り上げ、それらが社会運動として機能するために civility という観点からの考察が有効であることが説得力をもって示されている。日本における政治文化の現状を考えるうえで重要な論点を示す内容が含まれている、意欲的な論文である。

### 日本コミュニケーション学会 奨励賞（論文の部）

#### 宮本 淳子・増田 靖「イノベーション創出を促進する『対話』型コミュニケーションの特徴：新技術開発現場における『語り』に関する事例研究」（『日本コミュニケーション研究』第48巻第1号掲載）

本論文は、生命論的コミュニケーションモデル及びバフチンの対話理論を援用しながら、イノベーションを創出するためのコミュニケーションのありかたを解明する目的で、製品開発に携わった3名にインタビュー調査を行い、それを質的分析手法により明らかにしようとしたものである。バフチンの対話理論というコミュニケーション学の核となるような理論を援用し、イノベーションのプロセスを明らかにしようとした点では、本学会ジャーナルに大変ふさわしいテーマを扱っていると評された。ビジネス領域において、イノベーションのプロセスをコミュニケーション学の視点から明らかにしようとしたことは、コミュニケーション学に大きな示唆を与えるだけでなく、近年重要性を増している他分野との融合性も射程に入れたものであると評価された。異分野協働によるイノベーションの事例をとりあげ、コミュニケーションの観点から分析された大変興味深い研究であるといえる。

2020年度の年次大会が中止となってしまったため、今回の学会賞の授与式は延期となりました。

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 新事務局の発足

2020年4月の理事会にて役員の改選が審議され、広島大学の高永茂先生の後任として事務局長を拝任いたしました立命館大学の松島綾と申します。新事務局の体制は福山大学の脇忠幸先生に会員サービスを、桃山学院大学の宮脇かおり先生に会計をご担当いただくことになっております。

前任者でいらっしゃる高永茂先生、菅家知洋先生には、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと存じます。これからも学会員のみなさまが有意義な学会活動を行えますように、努力していきたいと考えております。

#### 2. 2020年度年会費の請求について

2020年度の年会費は8月初旬ごろに請求いたします。

#### 3. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

過去3年間の会費がすべて未納の場合には、会則第12条および内規6に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規5に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

#### 4. 会費納入状況の確認について

会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、jcompost@[@を入れる]bunken.co.jp です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

郵便振替口座番号 00160-2-603688

口座名義 日本コミュニケーション学会

(銀行口座からお振込の場合)

ゆうちょ銀行 (9900)

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019)

当座 0603688

ニホンコミュニケーションガツカイ

※海外在住などで振込が困難な方はクレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

#### 5. 学生会員・準会員登録申請について

学生会員（大学院生対象）、準会員（学部生対象）として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームを学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

#### 6. マイページの利用開始について

昨年12月から「マイページ」（会員情報管理システム）が利用できるようになりました。マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しいHP



の右上のバナーからログインできますので、できるだけ早い時期にアクセスしていただき、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。マイページへのアクセスに必要なIDとパスワードは、年会費の請求書と一緒に送付しております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なされた場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局

jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

#### 7. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

(1) 日本コミュニケーション学会HPにある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。

(2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

#### 8. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

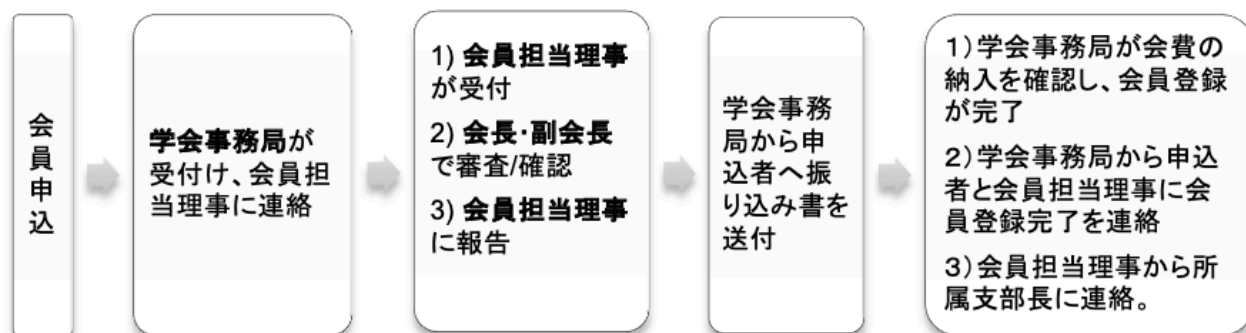
これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE

(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) にも論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

#### 9. 新規会員の手続き

JCAでは新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がありましたら、学会事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### 【会員申込から会員登録完了までの流れ】



## 広報局便り

### 1. 新広報局の発足

新型コロナウイルスが惹起した混乱のなか、理事会にて役員の改選が審議され、その後、新たな広報局の活動がスタートしました。新体制では、南山大学の今井達也先生にニュースレターを、名城大学の宮崎新先生にホームページをそれぞれご担当いただくことになっております。

この場をお借りして、前任者でいらっしゃる小山哲春先生、田島慎朗先生、石橋嘉一先生に御礼を申し上げます。長い間、お疲れ様でした。今後、新広報局としては、前任の先生方に構築していただいたシステムを発展的に継承できるよう、努力したいと思っております。

### 2. 広報局からのお知らせ

- ① 現在、全国版のMLを構築しております。JCA ニュースレター今号13ページのご案内を参照いただき、マイページへの登録手続きをお願いいたします。
- ② 広報局では各支部の情報、他学会や教員公募などの情報も、ホームページにアップロードしていきたいと考えております。ぜひ、情報をお寄せください。
- ③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップロードしたいと思います。
- ④ ホームページ (<http://jca1971.com/>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。

(広報局長 松本健太郎)

## JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：今井達也 (imatatsu.jca@gmail.com)

- ① 著書紹介  
会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。
- ② コラム：コミュニケーション教育  
コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。
- ③ 書評  
コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。和文・英文で1枚程度（A4）の原稿を受け付けております。
- ④ NL表紙の写真  
ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会のNL表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）

## 支部ニュース

 東北支部

(支部長 関 久美子)

このたびの新型コロナウイルス感染症拡大により、みなさまの生活やお仕事にも大きな影響が出ていることと思います。心よりお見舞い申し上げます。本来ですと、この3月に開催予定でありました2019年度東北支部定例会のご報告をこちらでさせていただくはずでしたが、この状況を受けまして残念ながら定例会は中止いたしました。発表・ご参加をご予定いただいていた皆様には感謝とともに、急な中止決定となりましたこと、改めてお詫び申し上げます。

2020年度は11月14日(日)に仙台にて第21回東北支部研究大会を大学英語教育学会(JACET)東北支部例会と合同で開催する予定ですが、こちらも今後の状況を見据えながら検討して予定しております。詳細が決まり次第、ホームページ・メール等でお知らせいたします。

 関東支部

(支部長 田島 慎朗)

今年度から局長を仰せつかりました神田外語大学の田島です。前任の小西卓三先生は引き続き学会理事として、また支部局の運営にも携わっていただきながら、運営委員一同で活動を盛り上げていきたいと思っております。

残念ながら、5月現在運営委員の住む地域は緊急事態宣言発令中で、活動のめどが立っていない状態です。また、運営委員も所属大学の教務等で、普段より忙しくされています。暫くは事態を鑑みながら、また年度内での活動を実現させるための代替案を模索しつつ活動を進めることになりそうです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

 中部支部

(支部長 森泉 哲)

## 2019年度支部大会の中止

既にメーリングリスト等で告知させていただきましたが、2020年3月14日(土)に予定していた第2回研究会(支部大会)を新型コロナウイルスの影響により、中止とさせていただきます。今回は、多文化関係学会中部・関西地区研究会と一部プログラムにおいて共催するという支部初の試みがあっただけに残念でなりません。この経験を将来にまた活かし、支部活動をさらに活発に進めていければと思っております。

## 2020年以降の支部役員について

2020年3月をもって旧役員の任期2年が満了しましたので、2020年以降2年間の支部役員を以下のように決定しました。全員留任し、一部担当変更がありましたが、この体制で2年間支部活動を充実させていければと思っております。よろしくお願いいたします。

## 支部運営委員

支部長	森泉 哲	(南山大学)
企画	毛利 雅	(名古屋市立大学)
NL	佐藤 良子	(東海大学(台湾))
NL	宮崎 新	(名城大学)
会計	福本 明子	(愛知淑徳大学)
監査	平田 亜紀	(常盤大学)

## 2020年度活動予定

例年通り、秋期と春期の研究会の実施、ニュースレターの発行を予定しております。開催方法、日程など決定次第皆様に連絡させていただきます。新型コロナウイルスの影響により、不確実性が高い状況ですが、例年通り活動を行っていく予

定としておりますので、どうぞ支部活動へのご協力をよろしくお願いたします。

## 関西支部

(支部長 小山 哲春)

今年度より前任の守崎先生から小山が支部長を受け継ぎます。守崎先生、長らくの関西支部長役、誠にお疲れ様でした。2020年度からは以下の体制で支部活動を運営していくこととなります。まだ先行きの見えない中でのスタートですが、どうぞよろしくお願いたします。

関西支部運営委員

支部長 小山 哲春 (京都ノートルダム女子大学)

運営委員 守崎 誠一 (関西大学)

運営委員 (監査) 森口 稔 (京都外国語大学)

運営委員 日高 勝之 (立命館大学)

運営委員 (会計) 野島 晃子 (立命館大学)

なお、すでにHPでもご報告差し上げました通り、2020年3月7日(土)に予定しておりました関西支部春季研究会は、他支部と同様、新型コロナウイルスの影響により中止させていただきました。例年11月に開催いたします秋の支部大会に関しては、オンラインでの開催なども視野に入れながら今後検討し、詳細が決まり次第、HP、メールリングリスト等でご報告させていただきます。

## 中国・四国支部

(支部長 谷口直隆)

中国四国支部では、第23回支部大会を以下のように予定しております。

日時：2020年11月下旬の土日いずれか1日

(調整中)、13:00開始 場所：広島修道大学、

全体テーマ：今改めて問うコミュニケーションと身体、シンポジウム：未定、※テーマに沿った登壇者&内容を予定

各種情報機器の発達と普及は、コミュニケーション場面や方法に様々なバリエーションをもたらしました。それと同時に、そこに付随する「身体性」もその高低/強弱にグラデーションが生じているように感じます。また、デジタルネイティブ世代とその他の世代とのコミュニケーションスタイルやコミュニケーション観のギャップも「身体性」に起因する部分もあるように思います。

新型コロナウイルスの影響で「新しい生活様式」が求められる今、私たちのコミュニケーションの実態やあり方を「身体」を視点に、言語、非言語、教育等、複数の分野・領域から考えます。

なお、中国四国地域でも、5月に非常事態宣言が解除された後にもクラスターが確認されるなど、新型コロナウイルスの影響が見通せない状況にあります。開催については、オンラインでの開催も検討します。また、社会状況によっては中止の場合がありますので、その点ご了解いただければと思います。

## 九州支部

(支部長 吉武 正樹)

夏に終わりを告げる最後の花火大会のように、毎年秋口に開催される九州支部大会は、支部会員にとっての「風物詩」です。年末には日時と会場校を決定し、5月には大会テーマの最終調整をしている最中でした。

しかし、この間新型コロナウイルスが拡大し、現在も今後が読めない状況です。そこで、運営委員会にて開催に向けたさまざまな可能性を模索しましたが、残念ながら、10月に予定していた

「2020年度(令和2年度)第27回九州支部大会」を中止することにしました(詳細は、7月発行の『九州支部ニュースレター第35号』「巻頭言」をご参照ください)。

苦渋の決断となりましたが、九州支部は転んでもただでは起きません。

支部大会が「花火大会」ならば、九州支部にはさらに、冬の街をキラキラと彩る「イルミネーション」のような支部紀要『九州コミュニケーション研究』があります。支部大会は中止となりましたが、その分支部紀要を充実すべく、現在特別企画などを計画中です。来年度の号になりますが、どうぞお楽しみに。

最後に、先述した九州支部NL35号ですが、会員からのメッセージ（池田理知子先生、平野順也先生）や図書の紹介（松本健太郎先生の『デジタル記号論—「視覚に従属する触覚」がひきよせるリアリティー』）など、盛りだくさんの内容となっています。こちらもぜひご一読ください。

\*NLは <http://www.caj1971.com/~kyushu> よりアクセス可能です

連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Tel: 03-6824-9372

Fax: 03-5227-8631

[jcom-post@\[をを入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-post@[をを入れる]bunken.co.jp)



## マイページ登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

### 1. マイページの利用開始について

マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しい HP の右上のバナーからログインできますので、**できるだけ早い時期にアクセスしていただき、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。**マイページへのアクセスに必要な ID とパスワードは、年会費の請求書と一緒に送っております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なされた場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局  
jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

### 2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

- (1) 日本コミュニケーション学会 HP にある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。
- (2) 学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

### 編集後記

今回のニュースレターから編集を担当することになりました広報局の今井達也です。どうぞよろしくお願ひいたします。ニュースレターを編集するにあたり、ニュースレターのあり方について考えました。なぜ存在するのか？誰に向けて書かれているのか？ニュースレターにしかできないこととは？そんなことを考えていると「ニュースレターというのはコミュニケーションなんだ。」と当たり前のことに気づきました。執筆をお願いする方々とのやり取りを通して、今までにコミュニケーションをしてこなかった先生方とやり取りをすることができ、自分にとって良い経験となっています。次のニュースレターが送られてくるのが待ち遠しくなるようなニュースレターの作成を目指します。どうぞよろしくお願ひいたします！

広報局 ニュースレター担当 今井達也